



那珂湊駅構内（画：清水喜輝氏）



奉仕しよう  
みんなの  
人生を豊かに  
するために

# WEEKLY REPORT

## No.3038 2022年6月6日

事務所 ひたちなか市海門町二丁目8-13 ひたちなか商工会議所那珂湊支所内  
 TEL.029(263)7811 例会日 毎週月曜日 12:30  
 FAX.029(263)6859 例会場 藤屋ホテル（当面の間）  
 URL : <http://www.nakaminato-rc.com/>

四つのテスト	
The Four-Way Test	
言はこれに照らしてから	
Of the things we think, say or do	
1. 真実かどうか	Is it the TRUTH ?
2. みんなに公平か	Is it FAIR to all concerned ?
3. 好意と友情を深めるか	Will it build GOOD WILL and BETTER FRIENDSHIP ?
4. みんなのためになるかどうか	Will it be BENEFICIAL to all concerned ?

### ★点鐘

根本 博 会長  
 国歌斉唱  
 ロータリーソング「奉仕の理想」  
 司会:遊座文郎SAA

### ★ビジター紹介

那珂湊野外劇代表 磯崎 満 様

### ★会長挨拶

根本 博 会長



今日は雨の中、出席頂きましてありがとうございます。お陰をもちまして先週5月30日に那珂湊第一小学校の3年生の児童の皆さんと、引率の先生方含めて約60名の方達と共にまぎくの植栽を無事終了することが出来ました。当初は400株という予定でしたが、今回は約200株を植えて、後の200株は植栽を終えた3日後に納品さ

れました。もうちょっと早ければ良かったのですが…残りの200株は、また皆さんの協力を得て改めて日取りを決めて植えられたらと思います。それでも残ったものに関しては小学校にあげるか、会の皆さんで分けるかちょっとと考えなければならぬのですが、50～60株ぐらい残るかもしれません。でも運の良いことに植栽の前後に雨が降りましたので多少は水やりの負担が減り良かったのではないかと思います。私も植栽を終えてから2回ぐらい、朝水撒きをやりました。大体5時には目が覚めるので、ホースを持って撒きに行ってきました。皆さん方でももし時間がありましたら水撒きやって頂いても良いのかなと思いました。しかしながらこの事業、本当に無事終わりましたこと感謝しております。ありがとうございました。

### ★出席報告

岡田 勝	委員長
会員数	24名
出席者	12名
欠席者	11名
出席免除者	1名
メーキャップ	3名
出席率	65.2%

### ★幹事報告

金子 明夫 幹事  
 東海那珂ロータリークラブ35周年記念誌が届きました。



★ 委員会報告  
ニコニコボックス委員会  
岡田 勝 委員長



根本博会長…5月30日無事那珂湊第一小学校の3年生とはまごく植栽事業を終えることが出来ました。ご協力ありがとうございました。

沢山頂いておりまのでお名前だけご紹介させて頂きます。

宮崎一雄会員 磯崎孝会員 根本隆会員  
川崎誠会員 川崎通夫会員 遊座文郎会員

#### ★ 外部卓話「第2回那珂湊野外劇」について 講師のご紹介

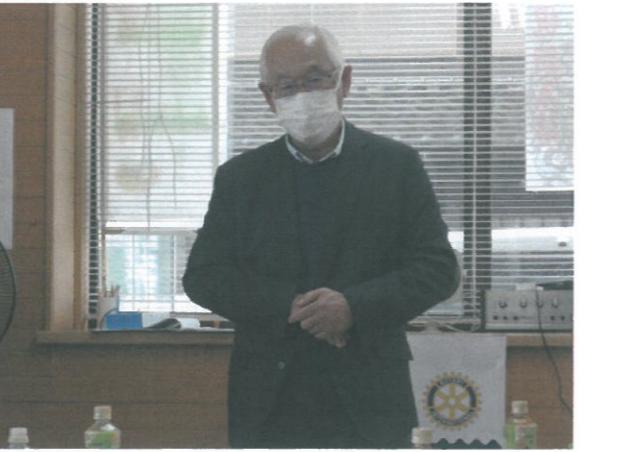
岡田 勝 会員

磯崎さんはご自宅は私の店舗のすぐ近く、根本隆会員のご自宅の斜め前です。

那珂湊野外劇ということで今回は第2回になります。平成30年に第1回を湊公園で公演しました。その際は那珂湊クラブさんにも大変ご協力を頂きましてありがとうございました。結果2日間の公演で約1,800名の方のご来場を頂き、天候にも恵まれて大評判でした。ことに演劇やイベント関係の方々からは「奇跡が起った」と言われるぐらいの大成功であったということで完了いたしました。それで今回はその第2回目ということで、本来ですと去年おととし、これは後で磯崎さんからお話しがあると思いますが、那珂湊の夏ということで、丁度お祭りの本祭をやらない年にやりたいということで準備を進めていました。2年前は残念ながらコロナの影響がありまして、準備を始めたのですが断念をいたしました。今年はこれもコロナがどうなるか分かりませんが、8月10日・11日の公演に向

て準備しております。今回の会場は「しおかぜみなど」湊二高の跡です。このお話を野外劇実行委員長であります磯崎満さんにお話し頂きたいと思います。

那珂湊野外劇事項委員会代表 磯崎 満 様



ご紹介にあづかりました磯崎です。前回4年前にもロータリークラブの皆様にはご後援頂き、また今回も続けてご後援いただけたこと大変感謝しております。ありがとうございました。

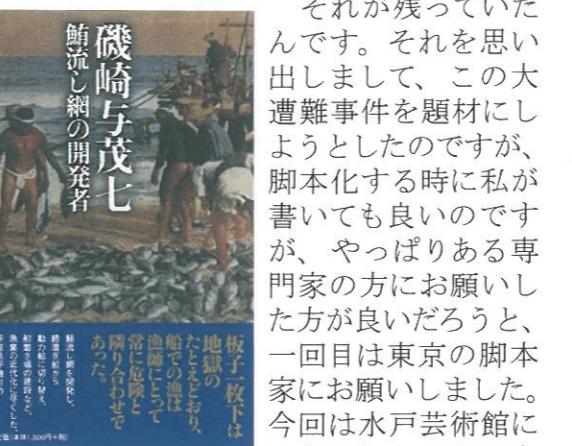
今回もやる予定ですが、何についてやるかというの常にあります。一回目の時にかなり精力を使いまして、少し疲れたんですが、街の人から「またやるんですね」と言われるようになり、「やります」と言う様になってしまいました。一回で止めるのは恥ずかしい話なので、やることに決めました。



先程岡田さんがおっしゃられた通り、お祭りの本祭が一年ごとあります、その間にやろうということで準備して参りました。コロナの影響で、4年ぶりの開催ということになりました。

先程の通り何についてやるかということです。私は元々高校の教員で、夏休みに今は止めてし

まいましたが平磯の平野屋で、史学部の先生から「那珂湊の民俗調査をやりたいので手伝って欲しい」と頼まれました。顧問の方が元々山の方の人間でしたので、山のことは詳しいのだけれど海のことはさっぱりなんです。という流れから、三泊四日、高校生と教員2名で合宿しまして、平磯町を戸別に一軒一軒回りまして、色々な話を伺ってきました。民俗調査なので色々多岐にわたること、古代から現代までのお話を聞きました。その中で出て来たのが、この明治43年の3月12日の大遭難事件だったんです。それをまとめて学校の紀要集に載せました。



それが残っていたんです。それを思い出しまして、この大遭難事件を題材にしようとしたのですが、脚本化する時に私が書いても良いのですが、やっぱりある専門家の方にお願いした方が良いだろうと、一回目は東京の脚本家にお願いしました。今回は水戸芸術館にいらっしゃって、今は茨城短期大学の准教授をやってらっしゃる方がおられて、その方に頼もうということになりました。けれども材料がないと困る、これは当然ですよね。それで資料を探しました。そうしたら木内書店で萩沼好夫さんという方が書いた「磯崎与茂七 鮪流し網の開発者」という本を私ではなく、女房が見つけてきたんです。磯崎与茂七さんは平磯では有名な方で、中身はノンフュイションなのですが、その方の本を見つけました。この本の中には色々と縁の方が出て来ます。昔県議員をやってらっしゃった根本惣一郎さんのお爺さん、根本惣三郎さんの話も出て来ます。劇の中では与茂七さんが動力船を建造しているとあるのですが、歴史的にいうと根本惣三郎さんが茨城では最初です。その後与茂七さんが和漕ぎの船から動力船に変えるといったことが詳細に書かれています。これを脚本家に渡して、本にしていただきました。ただこれだけの話では歴史の事実だけです。前回の劇は飛田与七という方の極めてわかりやすい話だったのです。今回の話は非常に凝りまして、話が重層化しています。古代の神話、そこから出てくる神



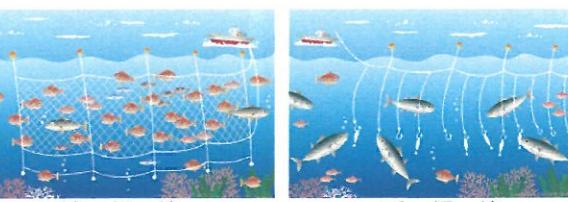
様を登場させました。それと現代といいますか明治43年の云々をコラボレーションさせています。なかなか込み入った話です。

その脚本の中に弟橋（オトタチバナ）という神様がいるのですが、その神様を登場させるのに、脚本家から高いところからの演出が必要なので高所作業車を用意して欲しいとの要望がありました。脚本家というのはとかく何をしてくれかにをしてくれという要望を多く出されます。私が代表ですのでそれに答えなくてはなりません。早速一緒にやって建設関係の一年後輩に相談したところ、すぐに高所作業車持ってきてくれました。公演で2日、リハーサル、予備日含めて4日間借りたいと申し出たら「仕事開けて置くからどうぞ使って下さい」と言って下さいました。で下世話な話「幾らお支払いすれば…」と尋ねたところあっけらかんと「知らないよ」と言う訳です。普通ニッケンとかレンタル業者から調達すると結構な額になります。こういったこと、皆様方が大変協力的で大変ありがたいことだと思っています。

今回は湊二高のグラウンドに大きな舞台を作つてそこで演じるのに、着々と準備をしています。今、役者が茨城短期大学のダンスグループも含めて30名、事件自体は悲劇的なんですが、それを悲劇的な今まで終わらせてしまうとしても悲しいままです。劇というのは普通の小説とは違つて、一種のエンタテインメント性がなければいけません。見た方がワクワクしていかないと話は続きません。それを役者と観劇者が共有して初めて成り立つものと考えています。

それで私がこの劇を通じて伝えたかったことといえば、かつてこの地域にはこういった事件があつて、それを乗り越えて漁業の発達に貢献してきたこと。これを表現したかったです。

和漕ぎの船から動力船へ変換。和漕ぎ船、当時は九丁櫓とか七丁櫓とかいう船で一つの櫓の漕ぎ手は2人、七丁櫓ですと14人、船頭を入れて大体20人弱乗る船です。これら船はカツオマグロ漁船です。鰯やマグロがこの辺に来たのかということですが、実際に来ていました。黒潮に乗ってマグロとかがやってきました。黒潮は表層が薄いので、そこに網を立てて漁をしました。先程出ました磯崎与茂七さんがやつたのは「流し網漁」というのでして、網を垂直に立ててそこに魚が突っ込ませるといった漁法です。それでは魚体が傷つくので、はえ縄漁というのが出来てくる訳です。近代のはえ縄漁、これはもう何百キロと仕掛けを流します。当時は前者の流し網漁でした。



調度、事故の前年々年の明治41年～42年は不漁でした。それで明治43年3月11日嵐がやってきました。当時は無線とか通信手段はありませんから、流れてきた話しで銚子沖でマグロが

たまっているということだったんです。この間、漁師の方にお聞きしたのですが、銚子沖のマグロが日本で一番うまいと言ってました。大間のマグロよりもこっちの方が断然うまいと言つてます。それを勇んで皆で取りに行きました。そうしたところ大漁です。当時の船は船員は船倉にはいません。船倉にはマグロがいっぱい、みんな甲板上で生活していました。マグロを満載した船は平磯には帰ってきます。当時は平磯が船主の中心、湊の中心は和田町でした。あとは前浜、今で言うところの阿字ヶ浦になります。銚子沖から戻ってくる最中に突然の爆弾低気圧です。これが暴風雪で雪交じりの吹雪です。これで結構漁師が凍死をしてしまいます。今度は船体が重いと自由がききませんから捕った魚を全部捨てる訳です。それをやつても転覆してしまいました。この事件では圧倒的に行方不明者が多いんです。遺体も上がりませんでした。今も一緒にですが軍艦なんかがきて3日ぐらい探したんです。色々な説はありますが、調べたのは437名で、439名との説もあります。大体500名弱の漁民が命を落としました。一番多かったのがやはり平磯町、200名以上の方が犠牲になっています。湊が約100人、あと前浜が60人ぐらいということでした。海難事故ですのでご遺体が打ち上げられた訳です。磯崎とか平磯とかに。今の平磯海水浴場の所は昔は荒浜といつてそこにみんな魚を揚げました。調度今の海水浴場の南側から堤防が出てそれから姥の懐までの間、そこに多くのご遺体が上がったと聞いています。最近分かることですが、平磯の方にお聞きしたら、海水浴場の南側では貝採りをしないと言つてました。昔、遺体がいっぱい上がったという言い伝えがあるので、あまり地元の人は貝取りとかはしないということです。姥の懐のあたりは昔から、私の子供の頃から貝とかは取っていたのですが、平磯に近いところではやはりしないということです。



光明寺（左）と華蔵院（右）の慰靈碑

その慰靈碑が市内に4箇所あります。泉町中寺光明寺にも亡くなつた方の名前が入つた碑があります。一番多いのは館山、ご本坊の左側の所に石碑が建つています。あとは阿字ヶ浦の淨

妙寺、この3箇所に慰靈碑が建つています。残念ながら平磯にはそういう碑はありません。それと翌年、水戸出身といわれる常陸山が辰ノ口で勧進相撲を行いました。事故により多くの家庭が母子家庭あるいは未亡人となつたので、勧進相撲の収益をその救済當てたといわれています。その時の碑が華蔵院に立っています。また当時の明治天皇皇后両陛下からもご下賜をいただきました。それらのお金で「なきびち山」…平磯中学校の右側の所…に松を全部植えました。私は何で松なのかと思って調べました。今は海と山の生態が関係しているということはご存じだと思います。山を守らないと海は豊かにならないということですね。明治時代の漁師の話や文書も残つているのですが、読んでみるとこの一帯には元々松を植えていたんです。松は防風林でもあるし、栄養分を海に運び出すといった効果もあります。そこに松を植えながら自分の旦那の靈を弔い、成長を見ながら在りし日を想うと行ったようなことで植えられました。そういう文書を読むと本当に涙涙です。中には乳飲み子を抱きかかえた未亡人が海に飛び込もうとしたとかいうものもありました。それ程までに衝撃的な事件でした。古今東西海難事故というのは多々あるのですが、この近辺では最大の遭難事件といえると思います。事故じゃないんです「事件」です。何を意味するかといいますと、船主の責任ということが挙げされました。安全を確保しないということです。何でそんなことまでやって漁に出るのかということだと思います。結論から言いますと漁師というのはやはりリスクを取るんです。リスク覚悟でうまくやれれば大もうけになるということだと思います。ですから北洋漁業が盛んな時期に漁師になつた人に話を聞きましたが、3航海やると家が一軒建つてしまうというようなそういった世界なんです。今ではそういう漁師さんはいなくなつてしましました。今は沿岸漁業を中心として営みを建てている漁師さんが多いです。那珂湊平磯地区は元々養殖漁業が盛んな地域でした。アワビで日本一の生産を誇っていました。また干しアワビとか、そういう時代が明治の初め頃ありました。元々の岩礁地帯というのは非常にものを作り出す、養殖には適した場所であったといえます。今以て磯崎漁協とかはやつていて思ひます。

ちょっと話は飛びましたが、今回の題材は悲劇的な話しではあったんですが、エンタテインメント性も含めて演じます。現在予定の3分の1を消化しました。土日が大体6時間、これを40日間やります。プロの役者、正確に言いますとプロに近い役者を今回は5人呼んでいます。東京から呼んで家に泊待つて稽古します。最大3人ぐらい泊めています。あとは地元の公募の方も結構いて「自分の爺ちゃんがこの事件で亡くなつたから」という方もいらっしゃいます。ですのであと3分の2、13回まできましたからあと27日頑張ってやりますのでご支援の程よろしくお願い申し上げます。